

1 章

取手市の緑の現況と課題

1 本市の緑に関する現況及び問題点・課題

1-1 緑の現況

(1) 緑の量と分布

本市の土地利用は、南西側の取手地域の市街地、東側の藤代地域の市街地、これら2地域を結ぶ国道6号沿道、市街化調整区域*の田園地帯で構成されています。土地利用の割合は、農地、山林、水面、原野等の自然的土地利用が約6割、住宅、商業、工業用地等の都市的土地利用が約4割となっています。

既成市街地*内の緑は、公共施設等の施設緑地*、大規模工場等の緩衝緑地*、都市公園*、山林等で構成され、その大半が山林で占めていますが、市街地内の緑は限られます。

一方、田園地帯では緑の量が多く、その多くは農地で構成されています。その他、北部の小貝川沿い、南側の利根川沿いに緑が分布しています。

年次	取手市全域						備考		
	市街化区域			地域全域					
	整備量		㎡ / 人	整備量		㎡ / 人			
	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)			
緑地種別	住区 基幹 公園	街区公園	119	13.8	1.5	138	23.3	2.2 (1)	
		近隣公園	6	18.1	2.0	6	18.1	1.7 (2)	
		地区公園				1	10.0	0.9 (3)	
	都市 基幹公園	運動公園				1	26.0	2.4 (4)	
		基幹公園計	125	31.8	3.5	146	77.4	7.3 (1)~(4)の計	
	都市緑地	4	1.7	0.2	5	7.2	0.7 (5)		
	緑道	1	1.5	0.2	3	2.2	0.2 (6)		
	都市公園計	130	35.0	3.9	154	86.9	8.1 (1)~(6)の計	都市公園法で規定された公園	
	公共施設緑地	65	55.2	6.1	140	125.5	11.8 (7)	公共空地、公共団体が設置している運動公園、学校等	
	都市公園等合計	195	90.2	10.0	294	212.4	19.9 (1)~(7)の計		
	民間施設緑地	206	127.0	14.0	520	520.2	48.8 (8)	ゴルフ場、山林等	
	施設緑地 計	401	217.2	24.0	814	732.6	68.7 (9)=(1)~(8)の計		
	地域制緑地	緑地保全地区				1	35.0	3.3 (10)	牛久沼近郊緑地保全区域
		生産緑地地区	121	29.8	3.3	121	29.8	2.8 (11)	市街化区域内の農地
		その他法によるもの		14.5	1.6		2,986.8	280.3 (12)	農用地区域(農業振興地整備法)、河川区域(河川法)
法によるもの 計			44.2	4.9		3,051.6	286.3 (10)~(12)の計		
条例等によるもの		7	3.6	0.4	16	7.0	0.7 (13)	神社境内等	
小 計			47.8	5.3		3,058.6	287.0 (14)=(10)~(13)の計		
地域制緑地間の重複					0.1		(15)		
地域制緑地 計		47.8	5.3		3,058.5	287.0 (16)=(14)-(15)			
施設・地域制間の重複		2.6	0.3		205.6	19.3 (17)	民間施設緑地と河川区域の重複等		
緑地総計		262.4	29.0		3,587.9	336.7 (9)+(16)-(17)			

※表中の数値は小数点第2位以下を四捨五入しています。

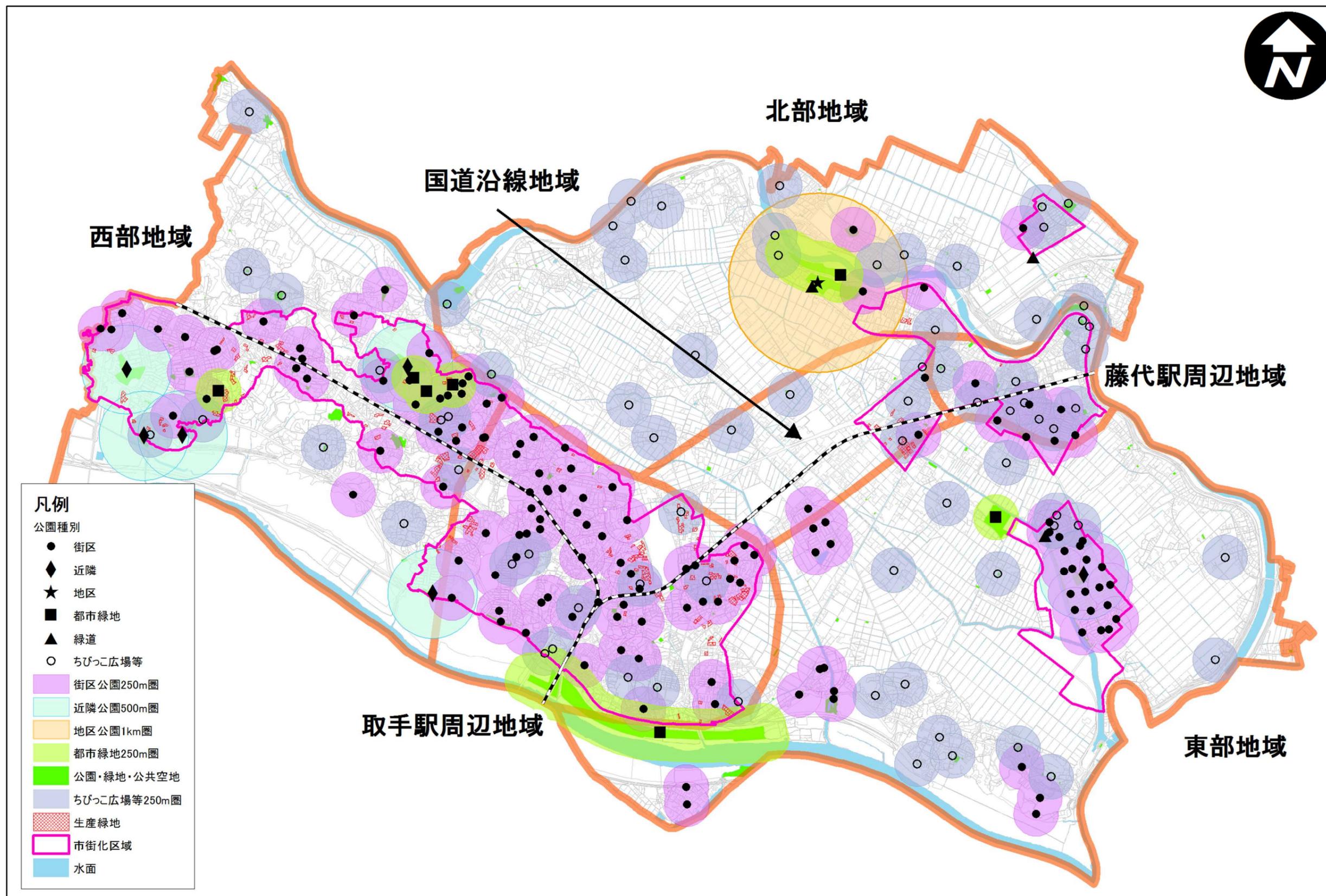
出展：平成27年度取手市都市計画基礎調査(H27.2月)及び国勢調査

■緑の現況図



出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

■公園及び都市緑地の分布と誘致圏



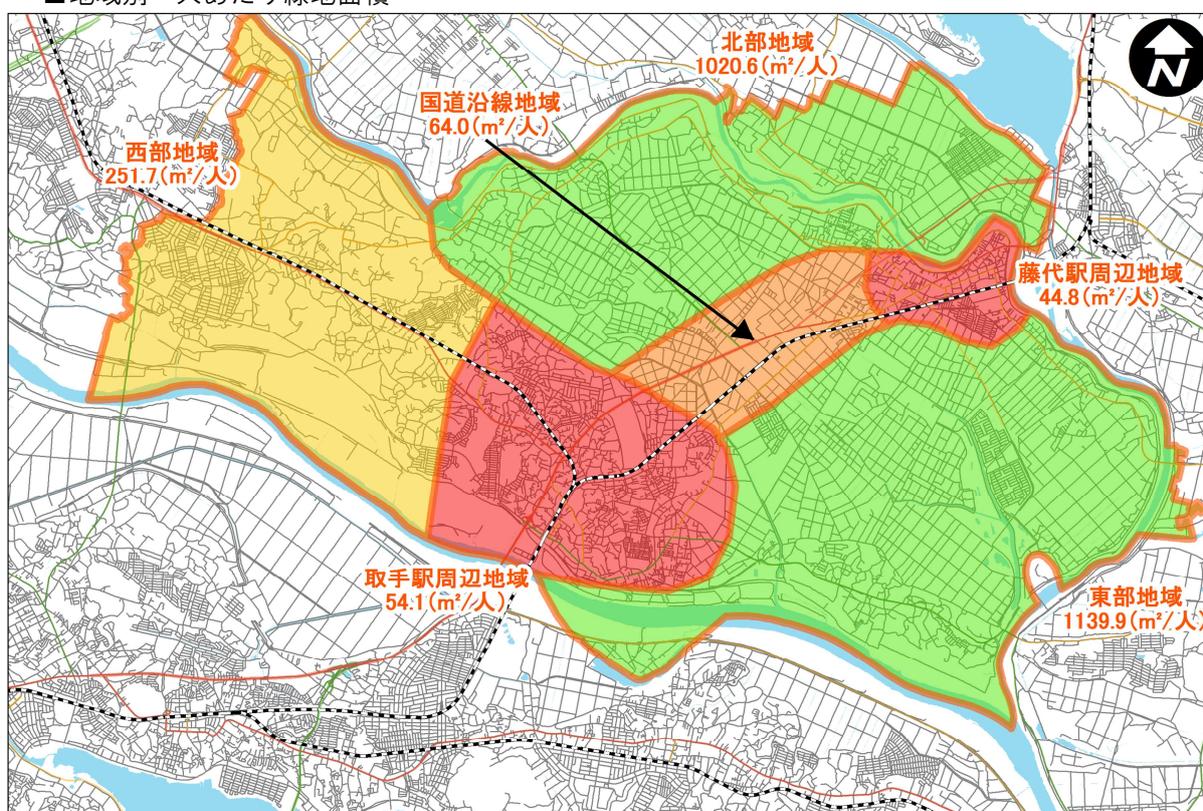
出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

(2) 一人あたり緑地面積

一人あたりの緑地面積は、田園地域である北部・東部の2地域で多く、西部地域でも比較的多くなっていますが、地域内の大半を市街化区域[※]が占める取手駅周辺・藤代駅周辺の2地域では特に少なく、両地域周辺の人口を含む国道沿道地域でも比較的少なくなっています。

$$\text{【地域別一人あたりの緑地面積】} = \frac{\text{地域別緑地面積}}{\text{地域全域人口}}$$

■ 地域別一人あたり緑地面積



	地域別 緑地面積	地域全域 人口	地域別 一人あたりの 緑地面積
取手駅周辺地域	215.5 ha	39.7 千人	54.1 m ² /人
藤代駅周辺地域	40.3 ha	9.0 千人	44.8 m ² /人
国道沿線地域	32.6 ha	5.1 千人	64.0 m ² /人
北部地域	1,061.1 ha	10.4 千人	1,020.6 m ² /人
東部地域	1,504.3 ha	13.2 千人	1,139.9 m ² /人
西部地域	734.1 ha	29.2 千人	251.7 m ² /人
合 計	3,587.9 ha	106.6 千人	336.7 m ² /人

※表中の数値は四捨五入した値であるため、表中の数値を用いて算出した一人あたりの緑地面積は異なる数値になる場合があります。

1-2 課題と対応の方向性の整理

都市特性、現況整理の結果及び「取手市都市計画マスタープラン※(H23.3)」、
「取手市環境基本計画※(H27改訂)」を踏まえ、本市の緑に係る課題と対応の
方向性を地域別に整理しました。

■緑に関する現況・課題から見た対応の方向性

(1) 取手駅周辺地域

現況

①地域特性	・ 既成市街地※
②土地利用	・ 都市拠点 ・ 駅周辺地域 ・ 住宅地、商業地、工業地が分布 ・ 井野小学校跡地をレクリエーション等の場として開放
③緑量	・ 大規模工場の緩衝緑地※ ・ 利根川河川敷（取手緑地）への緑量の偏在 ・ 街区公園※

課題

- ・ 既成市街地※内での緑量の維持・確保
- ・ 既成市街地※内で、街区公園※は多いが、緑量は少ない
- ・ 既存の緑資源の活用
- ・ 河川緑地の適正保全
- ・ 河川緑地の親水性向上

都市計画マスタープラン※の緑に関する方針

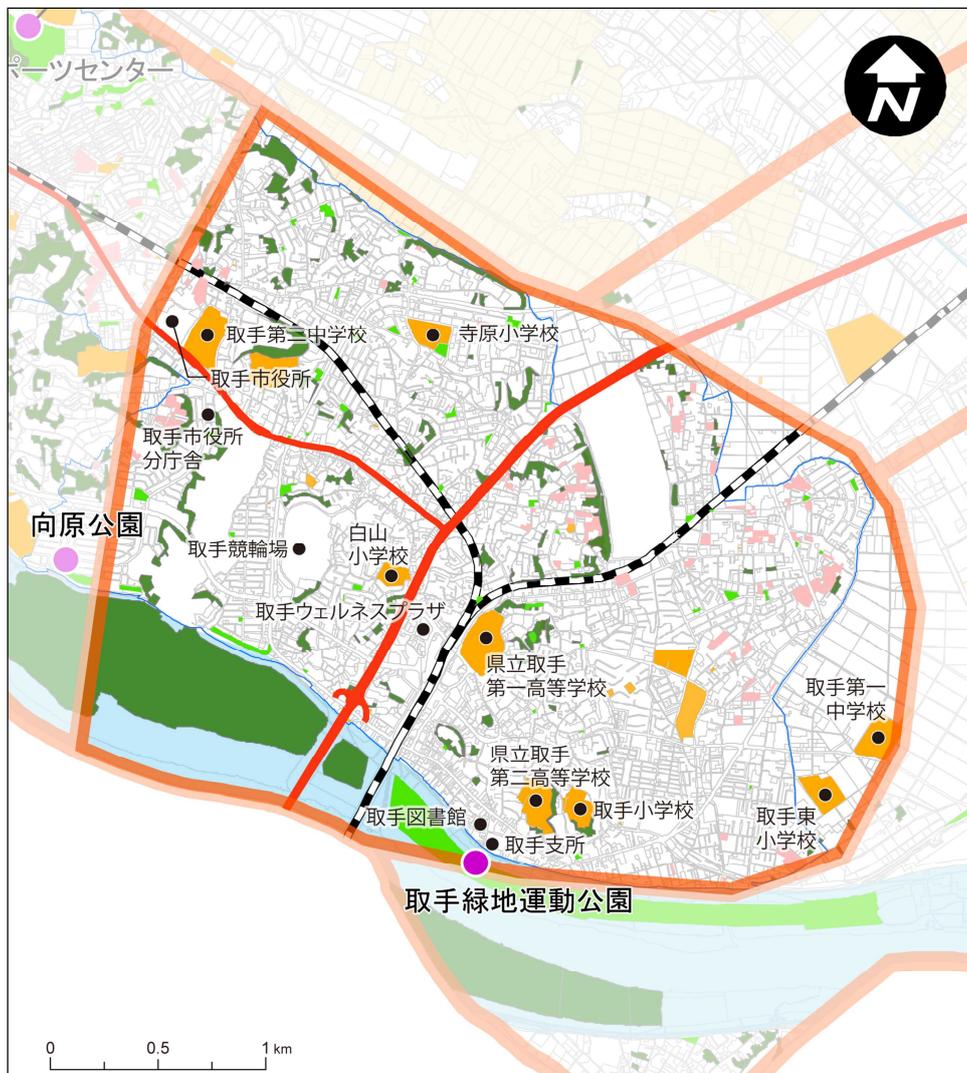
- ・ 都市緑化
- ・ 都市に近接する緑地の活用
- ・ 大規模工場と住宅地の共生（緑地の活用）
- ・ 取手緑地、利根川河川空間、サイクリングロードの充実・整備

環境基本計画※における緑に関する方針

- ・ 河畔林※や河畔の草地の保全
- ・ 社寺林※・屋敷林※や巨木・古木等の保全

対応の方向性

- ・ 大規模工場緩衝緑地※の保全による環境共生
- ・ 河川空間のサイクリングロード等の充実、整備
- ・ 公園等の緑地資源の保全・充実・整備と活用



凡例	
	都市公園(31.4ha)
	公共施設緑地(27.0ha)
	民間施設緑地(101.4ha)
	生産緑地地区(15.7ha)
	河川区域(103.7ha)

出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

(2) 藤代駅周辺地域

現況

①地域特性	・ 既成市街地 [※]
②土地利用	・ サブ拠点 ・ 駅周辺地域 ・ 住宅地
③緑量	・ 小貝川河川敷（サイクリングロード、グラウンド） ・ 既成市街地内で、緑量は少ない

課題

- ・ 既成市街地[※]内での緑量の維持・確保
- ・ 既存の緑資源の活用

都市計画マスタープラン[※]の緑に関する方針

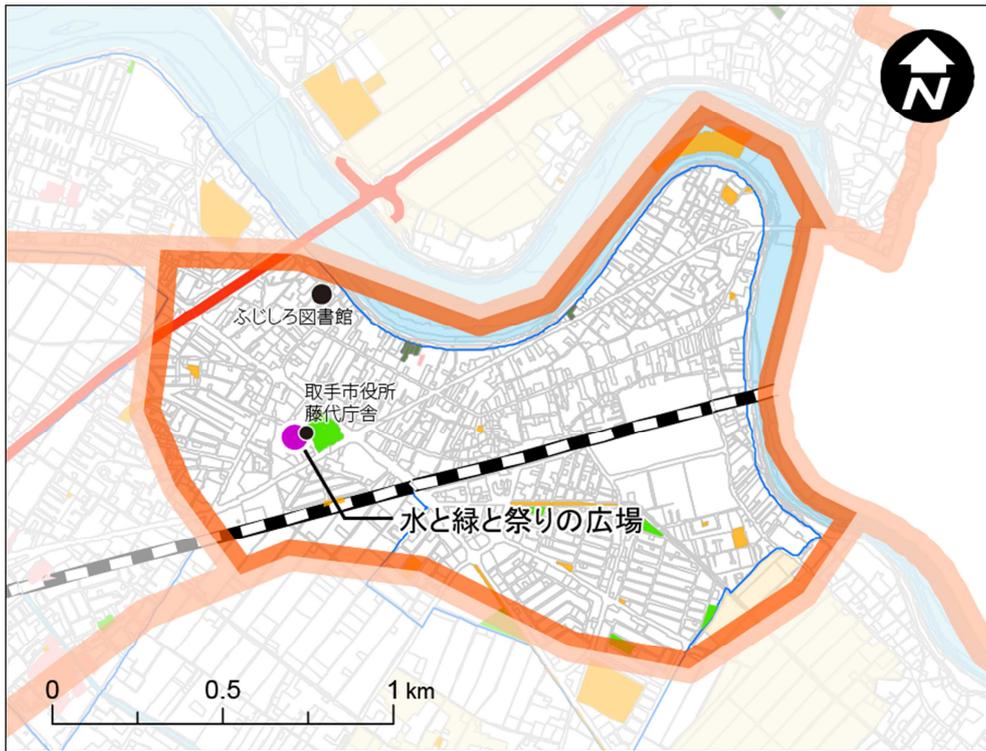
- ・ 小貝川が創出する良好な自然資源を適正に保全
- ・ 観光資源としてのサイクリングロードの整備

環境基本計画[※]における緑に関する方針

- ・ 社寺林[※]・屋敷林[※]や巨木・古木等の保全

対応の方向性

- ・ 公園等の緑地資源の保全・充実・整備と活用
- ・ 河川空間のサイクリングロード等の充実、整備



凡例	
	都市公園(1.9ha)
	公共施設緑地(7.3ha)
	民間施設緑地(0.2ha)
	生産緑地地区(0.1ha)
	河川区域(30.9ha)

出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

(3) 国道沿道地域

現況

- | | |
|-------|---|
| ①地域特性 | ・ 田園地帯
・ 一般国道 6 号が南北方向に通過している |
| ②土地利用 | ・ 市街化調整区域 [※] が大半
・ 取手駅周辺と藤代駅周辺を結ぶ都市軸上
・ 開発需要が高い |
| ③緑量 | ・ 農地としての緑地が豊富で市民満足度が高い
・ ふれあい農園 |

課題

- ・ 国道 6 号沿道の計画的な土地利用
- ・ 既存の緑資源の活用

都市計画マスタープラン[※]の緑に関する方針

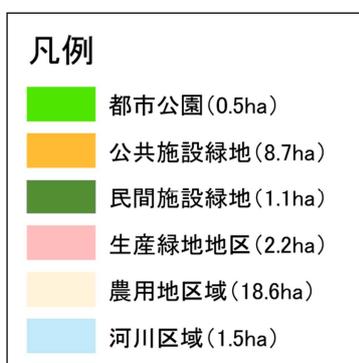
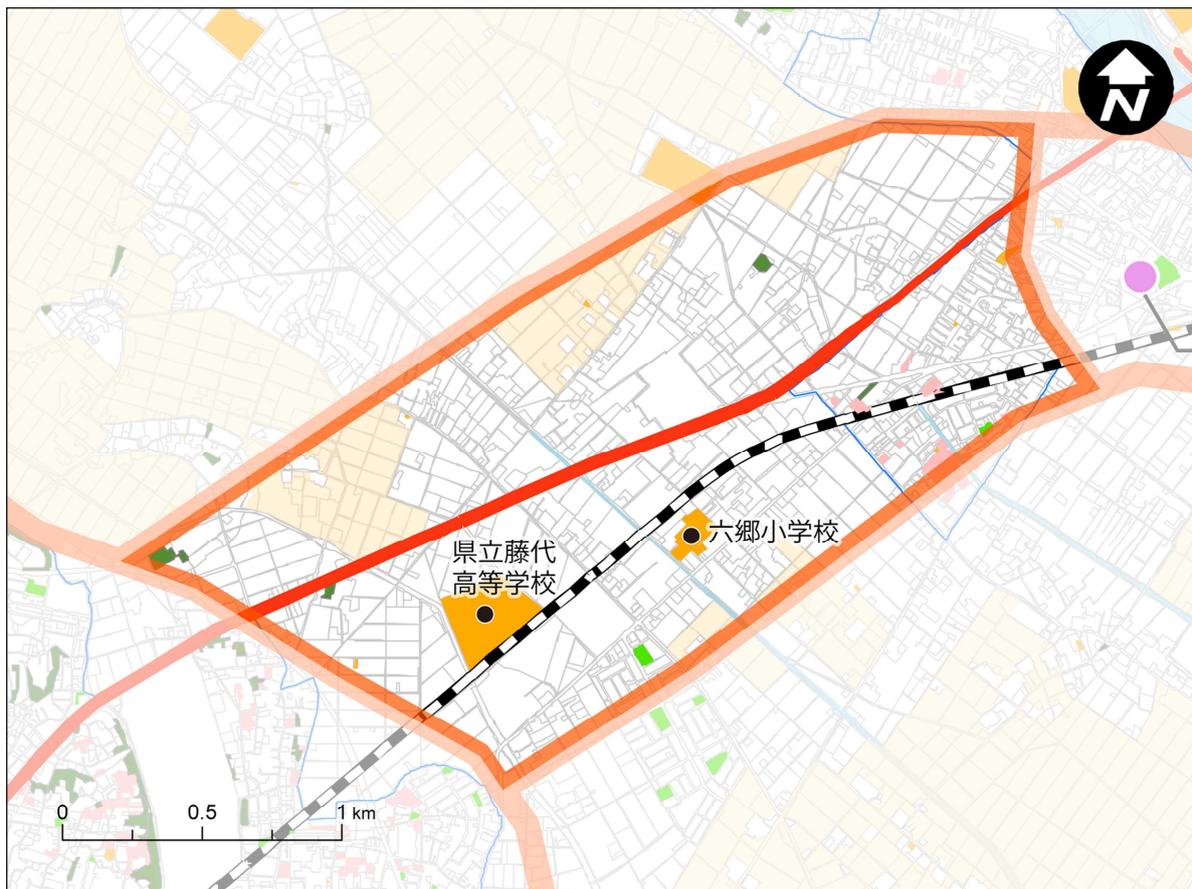
- ・ 大規模工場周辺の緩衝緑地[※]の配置（住宅地との共生）

環境基本計画[※]における緑に関する方針

- ・ 社寺林[※]・屋敷林[※]や巨木・古木等の保全

対応の方向性

- ・ 開発計画に合わせた上質な公園・都市緑地[※]等の整備
- ・ 緑地資源の保全と活用
- ・ 田園景観の保全



出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

(4) 北部地域

現況

①地域特性	・ 田園地帯
②土地利用	・ 市街化調整区域 [※] が大半
③緑量	・ 農地としての緑地が豊富で市民満足度が高い ・ 小貝川河川敷 ・ 藤代スポーツセンター

課題

- ・ 既存の緑資源の活用
- ・ 河川緑地の適正保全
- ・ 河川緑地の親水性向上

都市計画マスタープラン[※]の緑に関する方針

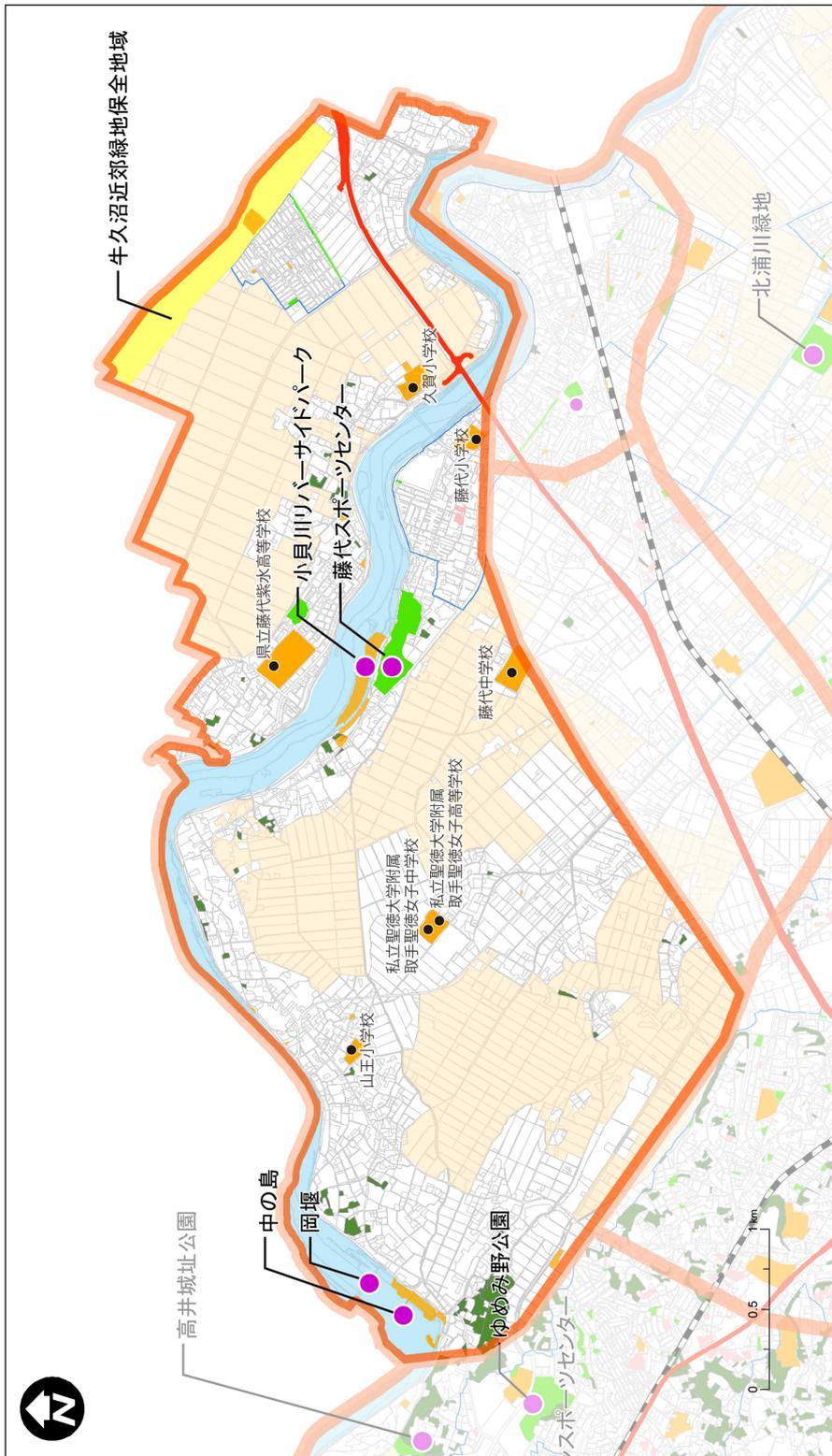
- ・ 田園環境と共生できる良好な住居環境の形成
- ・ 農業生産環境と都市環境の調和のとれた地域整備
- ・ 自然資源の適正保全と観光資源としての活用
- ・ 岡堰と、高井城址公園、ゆめみ野公園との連携を図り緑と水辺の拠点として機能充実
- ・ 藤代スポーツセンターと小貝川リバーサイドパークを中心とした緑と水辺の拠点の機能充実
- ・ サイクリングロード整備を進め、拠点とのネットワーク[※]化
- ・ 良好な水辺空間を活かし、牛久沼水辺公園とも連携したサイクリングロードや遊歩道の整備

環境基本計画[※]における緑に関する方針

- ・ 河畔林[※]や河畔の草地の保全
- ・ 社寺林[※]・屋敷林[※]や巨木・古木等の保全

対応の方向性

- ・ 緑地資源の保全・充実と活用
- ・ 田園景観の保全
- ・ 河川空間のサイクリングロード等の充実



凡例

■	都市公園 (12.3ha)
■	公共施設緑地 (24.7ha)
■	民間施設緑地 (15.4ha)
■	近郊緑地保全地区 (35.0ha)
■	生産緑地地区 (0.5ha)
■	農用地区域 (798.9ha)
■	河川区域 (176.1ha)

出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査 (H27.2 月) を基に作成。

(5) 東部地域

現況

①地域特性	・ 田園地帯
②土地利用	・ 市街化調整区域 [※] が大半
③緑量	・ 農地としての緑地が豊富で市民満足度が高い ・ 利根川河川敷、小貝川河川敷 ・ 取手緑地、北浦川緑地、北浦川緑道 [※] ・ 斜面林 ・ ゴルフ場 ・ ふれあい農園 ・ 都市公園 [※]

課題

- ・ 河川緑地の適正保全
- ・ 河川緑地の親水性向上
- ・ 既存の緑資源の活用

都市計画マスタープラン[※]の緑に関する方針

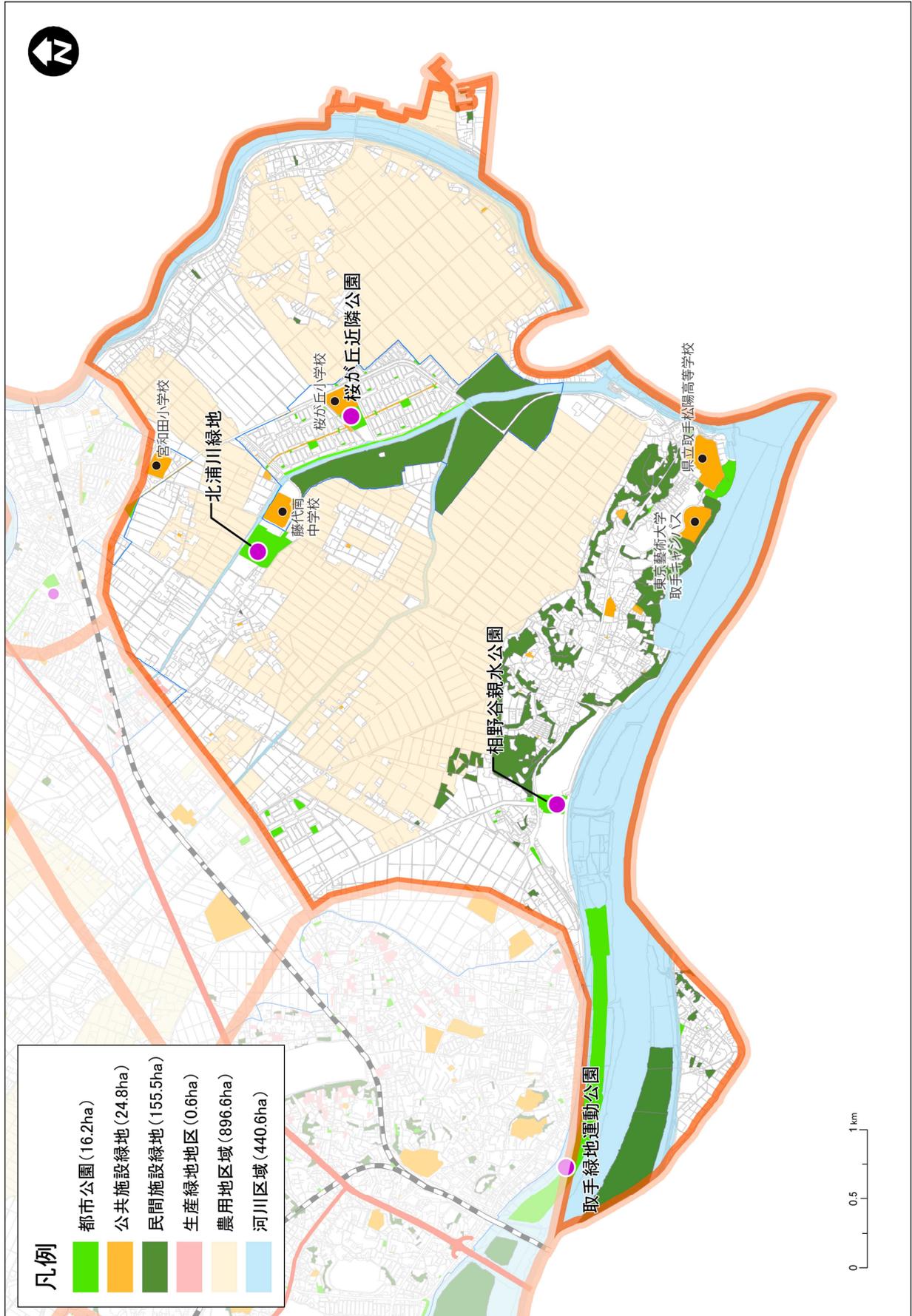
- ・ 芸術文化と自然環境に触れて暮らせる居住環境の形成
- ・ 斜面林や利根川の水辺空間等の豊富な自然環境の活用
- ・ 周囲の自然環境と共生した住みやすい居住環境の形成
- ・ 低地に広がる丘陵周辺部の斜面林、利根川、小貝川や古利根の水辺空間等の自然資源を保全し、適正に観光資源等として活用
- ・ 北浦川緑地、取手緑地：自然に親しむことができる緑と水辺の拠点としての機能充実を図る
- ・ 小貝川沿いのサイクリングロードの整備を促進するとともに、緑と水辺の拠点としての整備を検討
- ・ 緑の資源としての一面を有するゴルフ場の利用継続（当面）

環境基本計画[※]における緑に関する方針

- ・ 河畔林[※]や河畔の草地の保全
- ・ 斜面林の保全
- ・ 社寺林[※]・屋敷林[※]や巨木・古木等の保全
- ・ 親水広場等、自然性の高い水辺の整備

対応の方向性

- ・ 緑地資源の保全・充実・整備と活用
- ・ 田園景観の保全
- ・ 河川空間のサイクリングロード等の充実、整備
- ・ 斜面林の保全[※]



出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

(6) 西部地域

現況

①地域特性	・ 既成市街地 [※] ・ 関東鉄道と一般国道 294 号が、東西方向に通過している。
②土地利用	・ 住宅地、農地、工業用地が分布している。 ・ 関東鉄道沿線に既成市街地、北側に農地、南側にゴルフ場等が分布している。
③緑量	・ 小貝川、利根川沿いには農地や斜面林等の自然資源が多く残存 ・ とがしら公園、ゆめみ野公園等の都市公園 [※] が有る。 ・ ふれあい農園 ・ 稲戸井調節池

課題

- ・ 河川緑地の適正保全
- ・ 既存の緑資源の活用

都市計画マスタープラン[※]の緑に関する方針

- ・ 緩衝緑地[※]となる緑の配置等住宅地との共生に配慮した環境形成
- ・ 斜面林の適正保全
- ・ 自然と歴史に親しめる機能の充実
- ・ 緑の拠点として、斜面と一体となった良好な環境と景観の保全
- ・ 堤防を利用したサイクリングロード、遊歩道等の整備を進め、親水緑地[※]としての整備を図る

環境基本計画[※]における緑に関する方針

- ・ 河畔林[※]や河畔の草地の保全
- ・ 斜面林の保全
- ・ 社寺林[※]・屋敷林[※]や巨木・古木等の保全
- ・ 親水広場等自然性の高い水辺の整備

対応の方向性

- ・ 緑地資源の保全・充実・整備と活用
- ・ 緑の拠点となる公園の充実と活用
- ・ 河川空間のサイクリングロード等の充実、整備
- ・ 田園景観の保全
- ・ 斜面林の保全[※]



凡例	
	都市公園(24.6ha)
	公共施設緑地(32.8ha)
	民間施設緑地(246.6ha)
	生産緑地地区(10.7ha)
	農用地区域(88.9ha)
	河川区域(431.0ha)

出典：平成 27 年度取手市都市計画基礎調査（H27.2 月）を基に作成。

(7) 市全体

現況

①地域特性	・ 取手駅周辺地域、藤代駅周辺地域、西部地域は既成市街地※ ・ 藤代駅周辺地域の後背地、国道沿道地域、北部地域、東部地域、西部地域の一部は田園地帯
②土地利用	・ 関東鉄道沿線 JR 常磐線駅周辺に既成市街地※ ・ 田園地帯等
③緑量	・ 既成市街地※内では緑量が少ない ・ 田園地帯では農地としての緑地が豊富 ・ 南北の河川周辺に河川緑地が偏在 ・ 河川敷、サイクリングロードにより緑のネットワーク※が形成 ・ 取手緑地、藤代スポーツセンターをはじめとした緑の資源が存在

課題

- ・ 既存の緑資源の活用、特に既成市街地※では緑量が少なく、緑量確保が期待されており、既存の緑の適切な維持・保全
- ・ 河川緑地、サイクリングロード等の緑のネットワーク※を活かした連携
- ・ 緑量の多い公園等の適正管理による緑の拠点の充実

都市計画マスタープラン※の緑に関する方針

- ・ 水辺の自然環境を保全しながら地域特性を活かして魅力的な親水空間として適切に活用
- ・ 市民が水や緑に親しむことができ、スポーツやレクリエーション等の場としても活用できる拠点の形成
- ・ 市民の生活の中に活かされる公園の適正な配置、地域の特性に応じた緑地の保全や創出
- ・ 公園や緑地を結ぶネットワーク※を形成
- ・ 豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくり

環境基本計画※における緑に関する方針

- ・ 保存緑地・保存樹木等の保全
- ・ 地域住民との協働※による公園・緑地の整備
- ・ 公的施設、集客施設の緑化
- ・ みどりのリサイクルの推進による樹木の保全（「グリーンバンクとりで」）
- ・ 緑のカーテンの普及による緑化の推進

対応の方向性

- ・ 市民との協働[※]による緑化の推進
- ・ 緑地資源の保全・充実・整備と活用
- ・ 利根川や小貝川等を活用した魅力的な水辺環境の保全・整備
- ・ スポーツやレクリエーション等の場としても利用できる緑と水辺の拠点等の形成
- ・ 市民が身近に感じ、日常的に利用できる各種公園等の整備
- ・ 地域特性に応じた緑地の保全
- ・ 緑と水辺の拠点等から身近な公園や緑地を結ぶ水のネットワーク[※]や緑のネットワーク[※]の形成

■ 緑に関する現況と課題



出典：平成27年度取手市都市計画基礎調査（H27.2月）を基に作成。

2 緑の基本計画策定の方向性

取手市の緑の現況と課題を踏まえて、カテゴリ化した課題から導き出される取手市の緑の方向性を整理しました。

